

愛知県立大学の古代ギリシャのパピルス

執筆：Lincoln H. Blumell (ブリガムヤング大学准教授),

Kerry Hull (ブリガムヤング大学教授)

翻訳：春山 憂李

愛知県立大学にある古代文字資料館には、世界中から集められた数々の貴重な古代文字コレクションがある。2018年4月に筆者が当館を訪れた際、資料館の吉池孝一氏が一つつつ丁寧にコレクションを見せてくれた。コレクションの中で最も目を引いたのが、1990年代に株式会社雄松堂書店から買い取ったという2点の古代ギリシャのパピルスだ。この2点がエジプトの地方から来たのは間違いないのだが、具体的な場所は特定されていない。

パピルス I：エジプトの月のリスト(*1)

パピルス I【プレート I 参照】は、おおよそ縦横 10 x 3.5 cm の大きさだ。左側は破損して読み取れない状態で、右側 2~5 文字分ほどが読み取れる。しかし上下は完全に破損している。文字はパピルスの表側のみに濃い茶色のインクで書かれている。初めの 6 行は熟練された手書きで、7~9 行目は別の人物によって書かれたそれほど熟練されていない手書きだ。更に、10 行目にはまた別の人物によって器用な筆記体で書かれている。

全体のほんの一部しか残っていない古代文字の研究は困難を要す。1~6 行目はまっすぐな一列で書かれている。7~9 行目も同様に横にまっすぐ書かれているが、文字一つ一つが右に傾いている。複数人により書かれているところを見ると、このパピルスはビザンツ帝国時代ではなく紀元前 500 年の時代から来ていることが明らかだ。7~10 行目にある 2 人目と 3 人目の人物によって書かれた文字は明らかに右斜めに傾いて書かれている。この書き方は紀元 3 世紀から始まったとされ、よって紀元 3 世紀がこのパピルスが書かれたと推定できる時期で最も早い時期となる。同様に、二重母音のイプシロン (ει) の書き方がまず線が垂直に上に伸び、円を描きながら右に流れ、最後に下に垂直に下がっている。この種の書き方は紀元 3 世紀に主流だった。この書き方は紀元 4 世紀でも見られたのだが、このパピルスが 4 世紀からのものだと断定できない。よって、当時の書き方のトレンドから見て、このパピルスは紀元 3 世紀かまたは 4 世紀のものだと推定する。

全体の文字のほんの一部しか残っていなかったにも関わらず、このパピルスにはエジプトの月のリストが書かれていることが分かった。これに似たリストが6～7世紀のものだと推定されている SB VI 9529 にも残されており、それにはローマとエジプトの月が並行して書かれている。(*2) 今回のパピルスの2行目には Φαρμουῦθι (Pharmouthi)の月はおそらく Παχών (Pachōn)、 Παῦνι (Pauni)、 Ἐπίφ (Epeiph)、 Μεσορή (Mesorē) (*3) の順であると分かる。パピルスの1行目は再構築できずにおり、Φαρμουῦθι (Pharmouthi)は Φαμενώθ (Phamenōth)の月より先に来るといふ考えもあるが、文字の最後が読み取れない。7～10行目には Ἀθύρ (Hathyr)、 Χοίακ (Choiak)、 Τῦβι (Tybi)、 Μεχείρ (Mecheir)の月が読み取れる。6行目の Μεσορή (Mesorē)と7行目の Ἀθύρ (Hathyr)の間には、Θώθ (Thoth)と Φαῶφι (Phaōphi)の月が来るはずだが、このパピルスには記述が見当たらない。7行目の Ἀθύρ の左側にあるインクの後からして、このふた月はこの行の前半の失われている部分に書かれていたのかもしれない。

→]. . . .
		Φαρμ]οῦθι
		Πα]χών
		Πα]ῦνι
5] Ἐπέφ
		Μεσ]ορή
	m2]. Ἀθύρ
		Χ]οίαξ
		Τ]ῦβι
10	m3	Μ]εχείρ
]. [

翻訳 :

… Pharmouthi, Pachōn, Pauni, Epeiph, Mesorē, … Hathyr, Choiak, Tybi, Mexeir, …

注釈 :

5 [Ἐπέφ] Ἐπέφは Ἐπίφとも書ける。P. Köln 14.559.11 (c. 255 BC)、O.Claud. 2.202.1 (c. AD138–154)、P.Oxy. 16.2018.9 (紀元前6世紀)を参照。

8 [Χ]οίαξ Χ]οίαξは Χοίακとも書ける。O. Leid. 28.2 (紀元前1、2世紀)を参照。

に養子縁組された、チャイヤーの割当の北側、ミエウスの息子) を参照。

6 [A ὑρηλίου Θεώνος] アウレリウスという名の人物は紀元前3世紀のパピルスに数多く出てくるため、特定の人物を断定できない。

7 [πλεό(νασμα)] Cf. P.Ryl. 2.213.82 (紀元前2世紀前半): φόρου πλεο(νασμῶν)を参照。

↓		δη]μ[ο]σία χ . .[
]π[±10]ν αὐτῷ ποιη[
]η .[±10]ησαι Πτολεμ[
5]να[±10]τειοις [
]σεν εκ.[
]ην συν[

注釈 :

2 [] π[±10]ν αὐτῷ ποιη[] ποιη の文字の組み合わせは、動詞の ποιέω (作る、する、披露する etc) から来ている。

3 [] η. [±10]ησαι Πτολεμ [] πτολεμ の文字の組み合わせは読み方が正しければプトレミー(Πτολεμαῖος)という名から来ている。

5 [] σεν εκ. [] 文字の切れ目は]ς ενεκ. [とも考えられる。

7 [...].[] この行のほとんどをテープが邪魔をしている。テープをはがそうと試みたがパピルスが破れてしまいようだったのでそのままにしておくことにした。

*1 略語の解釈に関しては J. F. Oates et al. (eds.), *Checklist of Editions of Greek and Latin Papyri, Ostraca and Tablets* (5th ed.; BASP Suppl. 9, 2001) を参照。オンライン版はこちら。 <http://scriptorium.lib.duke.edu/papyrus/texts/clist.html>

*2 出版はされていないが、P.Birm. inv. 293a (ローマ時代) にもローマ、ギリシャ、エジプトの月のリストが記されている。

*3 エジプトの月については P.J. Pestman, *The New Papyrological Primer* (Rev. 2nd Ed.; Leiden, 1994), 34–36, 317 を参照。

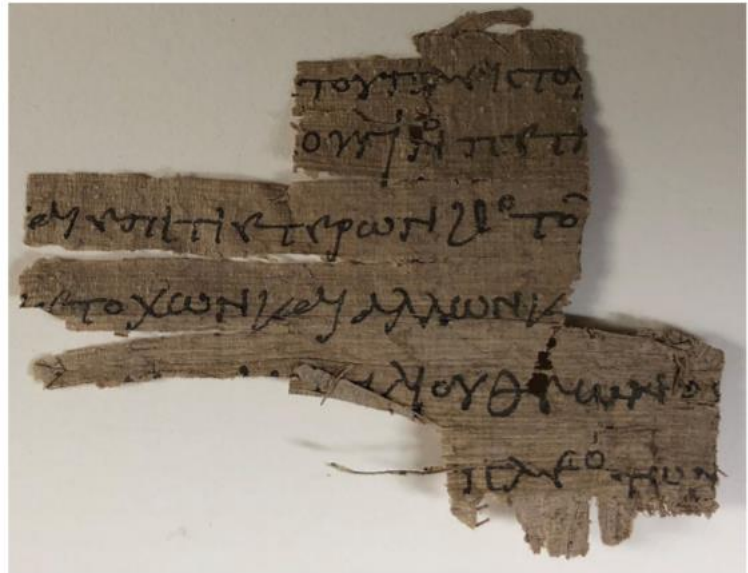
*4 B. Mclean, *An Introduction to Greek Epigraphy of the Hellenistic and Roman Periods from Alexander the Great down to the Reign of Constantine 323 B.C. – A.D. 337* (Ann Arbor,

2002), 116 を参照。 “…紀元前 212 世紀以降 Caracalla の Constitutio Antoniniana は帝国の人々皆に市民権を与えた…皇室の支持者の名の元に入ってきた M（マークス）・アレリウスも憲法に従ってローマの市民となった。彼の先祖代々から受け継いだ名前はニックネームとして使われた。”

【プレート I】



【プレート II・表】



【プレート II・裏】

